

2013.4.26

志免町歴史資料館（仮称）設立に向けての調査研究

志免町町議会議員 古庄信一郎

志免町には歴史資料館が無く、庁舎内に狭い歴史資料室として諸解説や資料物の展示を行っている。そのような状態なので、満足な資料館としての機能も発揮しておらず、訪問者も古賀粕屋地区の自治体の中で断トツ少ない状況で、特に青少年への教育的観点からの機能も発揮していません。

また、貴重な歴史的埋蔵物や資料が町内の数カ所に分散して保存され、そのことによる貴重な資料埋蔵物の劣化が大変心配される状態です。

そのような中、「志免立坑櫓」が日本の近代化を担ってきた石炭産業の遺産として、また昭和・戦中時の建築物として高い評価を得、2009年12月8日に国の「重要文化財」に指定されました。

これによって全国の注目度も高くなり、町内外からの視察者が増加していますが、何と「立坑櫓」の現地には、簡単な解説版が設置されているだけで、視察に訪れた人から「これだけの国の遺産遺跡なのに資料館は無いのか」との指摘をよく受けます。

また現存の「資料室」（前述）は立坑櫓から遠く離れており、機能的にも問題です。

このような現況に対応するため、行政は昨年12月議会に「歴史資料館（仮称）」の建設を協議するため、「志免町歴史資料館建設審議会設置条例」を提案してきましたが、議会はこれを否決してしまいました。

前述のように、郷土の歴史を守り後に伝えていく事は、現在生きている者の責務であり、町の活性化、そして教育的観点からもしっかり推進して行かなければなりません。その拠点となるのが「歴史資料館」であり、「郷土資料館」です。

以前より、歴史資料館の調査は行ってきたが、今回はこのような町の状況を鑑み、志免町と類似した都市部における資料館の現状を調査することとした。

また、志免立坑櫓等を題材としたワンダーJAPANの「産業遺産の記録」出版記念トーク会が東京で開催される事を受け、これへの参加を兼ね東京周辺の資料館の調査を行った。

以下、今回調査した資料館の特記すべき事項を、写真を交え報告すると同時に、入手資料の一部（表紙）をコピー添付し報告とする。

◆ 桶川歴史民俗資料館 （場所）埼玉県桶川市川田谷 4405-4

（桶川市は埼玉県の中央に位置し、中山道の宿場町として栄えた街で、面積は25.26平方キロメートル、人口75,000人の市）

桶川歴史資料館（写真右）をなぜ視察したかったのか？それは「歴史資料館」と「図書館」そして地域の「公民館





（生涯学習センター）」、この三つの施設を共有する施設として建設され運用されている点です。

なぜこのような施設の建設になったのか、その過程は、施設がある場所（川田谷地区）は、元々、小学校があった場所で、その跡地の活用について検討した結果、公民館の建設が決定したが、「もっと複合的な施設にすべき」との地元の要望もあり、市の「歴史民俗資料館」構想とこれに「図書館」も

加えた現在の施設となったとのことです。（写真左・玄関）

建設は平成4年で、建設費は13億円。

運営は「公民館」はシルバー人材センターが管理、「図書館」（写真下）は公募で民間企業のTRCが運営、「歴史民俗資料館」（写真右）は市の直営で、全体の総称は「川田谷生涯学習センター」と通常呼んでいるとのことです。

（※ TRC→株式会社TRC 図書館流通センター）



「桶川歴史民俗資料館」設立のコンセプトは…

私たちが日々の暮らしをいとなむ桶川。この地には遠い昔から人々が暮らし、そのあかしは文化財として私たちに伝えられています。桶川市歴史民俗資料館は、桶川市の歴史と文化を物語る文化財を保存し、祖先の知恵を学ぶ場として設立する。

【考察】

コンセプトも素晴らしく、複合的・多目的に施設が建てられている。そして何と言っても地域に密着しており、その運営もそれぞれ適材適所でなされている。

規模は別として、複合的な活用は志免町のモデルとして参考となる施設です。

◆ 学校給食歴史館 （場所）埼玉県北本市朝日2丁目288番地



（北本市は埼玉県の中央に位置し、面積は19.84平方キロメートル、人口69,100人の市）

学校給食歴史館は、「公益財団法人・埼玉県学校給食会」が敷地内の一角に、既存の建物を再利用して設けられた。

（写真左は建物・写真下は施設玄関）

展示物は学校給食に関する資料を収集し展示、特に学校給食初代から現代までのメニューの変遷が再現され展示されており、子どもから大人まで楽しめる施設となっている。

県内外の学校から視察が絶えないとのこと。

資料館と言っても、全国には色々な資料館があるが、学校給食に関する資料館は聞いた事が無く、しっかりしたテーマを持った「資料館」の一例である。





「学校給食歴史館」設立のコンセプトは…

学校給食に関する歴史資料等を収集し一般公開を行い、多くの方々に学校給食についての理解をより深めていただくとともに、食育の推進にも役立つことのできる「学校給食歴史館」を開設する。

(写真左・初めての学校給食 明治 22 年)

【考察】 資料館は、地域に関するものだけでなく、テーマに沿った資料館もある。志免にたとえば、石炭産業に関連して、化石燃料とか自然エネルギー、環境、色んなテーマが考えられる。

これらを資料館のメインテーマとし、複合的に郷土とか歴史を語る複合資料館も考えられる。

いずれにしても、資料館の有り方は画一的なものではなく、地域や時代に即した柔軟な考え方も肝要である。

(写真右・資料館内部)



◆ 戸田市立郷土博物館 (場所) 埼玉県戸田市新曽 1707 番

(戸田市は埼玉県の南東部に位置し、江戸時代の中山道「中山の渡し」や、ボート競技場の「戸田ボートコース」で有名。面積は 18.17 平方キロメートル、人口 128,700 人の市)



昭和 49 年、戸田市史を作るため沢山の資料が集められ、それらの保存場所が必要となりまず収蔵庫が造られた。また市の図書館は 4 ヶ所の公民館に分散した分館図書館としてあったが、これらをたばねる中央図書館の必要も語られていた。

これらを受け、戸田市立図書館・戸田市立郷土博物館として共有の施設が、地上 3 階、地下 1 階、延床面積 6,699.15 m²、工費 19 億 7,300 万円で昭和

58 年に建設。(写真左)

同年にまず 1・2 階に図書館が開館し(写真右) つづいて翌 59 年に郷土博物館が 3 階に開館した。(写真左下)

この郷土博物館の特徴は、図書館との併設である。

なぜ併設となったのか何うと、当時、「歴史を学び調べるためには、博物館に図書館を併設して欲しい」との子ども達や関係者からの要望があり併設となったとのこと。

運営は、博物館は市の直営だが、図書館は前述の桶川市図書館と同様、民間業者の TRC が運営している。

視察をした時も、市内の小学校から 2 クラスの生徒が訪れており、職員から展示物の説明を受けていた。(写真次頁上)

また、「郷土博物館憲章」も制定され、市民に広くその意義、目的を啓蒙されているのは素晴らしい取り組みである。



(憲章は添付資料を参照願います)

「戸田市立郷土博物館」設立のコンセプトは…
郷土博物館は、時代の激しい流れの中で急速に失われつつある自然と文化財を保存・展示し、郷土の歴史と文化を理解していただくことを願ってつくられた。

【考察】

当博物館は、素晴らしく整えられた図書館と併設し、機能的にも充実した施設となっている。また、博物館憲章の制定からも伺えるが、博物館の位置づけ、考え方をしっかり確立し、その理解は、今回の視察時に説明を頂いた市職員の言動からも十分に汲み取れた。博物館であれ郷土館であれ、施設の意義、意味はしっかりと確立しなければならない。



◆ ^{わらび} 蕨市立歴史民俗資料館 (場所) 埼玉県蕨市中央 5 丁目 17 番 22 号

(蕨市は埼玉県の南東部に位置し、江戸時代の中山道の宿場町として栄えた街で、成人式発祥の市。また面積は 5.1 平方キロメートル、人口 72,300 人と全国一のミニ市で人口密度も 1 位の市)



蕨市立歴史民俗資料館は(写真左) 旧中山道に面しており、平成 2 年にライブタウン埼玉助成事業の指定を受け建設された資料館で、蕨の歴史と文化の特色である宿場と織物に関する情報を中心に構成展示されている。(写真右)



外観も入り口も民家的建物で入り易く親しみを感じさせる資料館です。(写真下)

【考察】

地域の歴史を重視し、宿場町としての特色と地域の発展に寄与してきた織物をメインとした資料館で、ミニ市の蕨市ならではのコンパクトな資料館です。
図書館や他テーマと複合的な大規模資料館と違った暖かなアットホーム的な資料館です。
このようなコンセプトでの資料館も一考する意味もある。

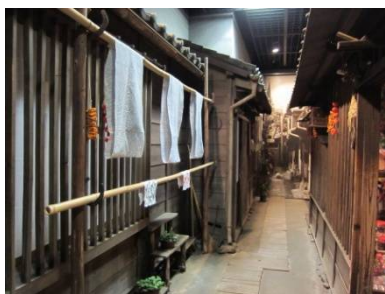


◆ 台東区立下町風俗資料館 (場所) 東京都台東区上野公園 2-1

台東区立下町風俗資料館は、上野公園の不忍池の畔にある資料館で、昭和 55 年に開館。(写真左)

管理運営は、指定管理者制度によって、公益法人台東区芸術文化財団が行っている。

1階は大正時代の下町を再現、(写真左) 2階はベーゴマやけん玉など昔の玩具が飾られ、遊びが体験できるコーナーがあり、私も我を忘れて夢中になりました。(写真下・遊ぶ子)



土地柄から視察時にも多くの外国の方が訪れており、受付では文化財団に所属するガイドの方が流暢な英語で説明をされていました。

また本館は入場料を取っていることも特色といえる。

「台東区立下町風俗資料館」設立のコンセプトは…

区では下町風俗資料館条例を制定しており、その第1条の目的に、「東京都台東区を中心とした下町の歴史、風俗等に関する資料を収集し、保存し、及び展示して下町文化の育成等に寄与するために設置する」とある。



【考察】

資料館の目的・運営方法他を区の条例でしっかり制定されており、また運営も第三者へ委託され、資料館運営の一考だといえる。

—完—

資料館視察時に、横浜市で資料館他ライトアップがされており、志免立坑櫓もライトアップしているので参考に視察する。施設のライトアップも観光のテーマの一つとして大変有意義であると改めて感じた。



神奈川県立歴史博物館
(旧・横浜正金銀行)

神奈川県庁



横浜税関

※ レポート中の写真は全て古庄が撮影したものです。

2013.4.27

ワンダーJAPAN「産業遺産の記録」出版記念トーク会へ参加

古庄信一郎

日本各地にある異空間を探検紹介する探検マガジンを発刊している「ワンダーJAPAN」（発行元・(株) 三オブックス）が、「産業遺産を記録・見学する」を推進している「NPO 法人 J-heritage」とコラボして完成させた「産業遺産の記録」の出版記念として、「消え行く産業遺産の危機の話・産業遺産と廃墟の関係・近代建築の意外な見所」等々をテーマに約100名の参加でトーク会が開催された。(写真左)



志免立坑櫓もこの「ワンダーJAPAN」と「NPO 法人 J-heritage」に視察を受け（古庄が対応）「ワンダーJAPAN」の創刊号と（2005/12）第11号（2009/4）に大きく掲載され今回も受付で紹介されていた。(写真下)

(両号分の表紙をコピーして別紙資料に添付)

そして今回の「産業遺産の記録」にも掲載された。

今回のトーク会で、参加者の皆さんにも志免立坑櫓への興味をしっかりとっていただくことができ、スタッフや参加者から「是非一度行きたい」と熱いエールを頂いた。また軍艦島同様貴重な遺産でありしつかり残し活用すべきとの声も伺った。

このような活動も志免町を全国にアピールする機会であり、それも「志免立坑櫓」が国の重要文化財に指定され、その存在意義が認められたからである。



これからも全国での「志免立坑櫓」への評価を把握しながらアピールして行きたい。このことも大事な町の活性化に繋がる研究であり活動である。

- ・開催日 2013年2月16日 19:00～21:00
- ・場所 「本屋 B&B」 東京都世田谷区北沢 2-12-4

— 完 —

九州山口近代化遺産群の世界遺産への動向調査と 志免立坑櫓との関連研究について

志免町町議会議員 古庄信一郎

志免町及び粕屋地域のランドマークであり、国の「重要文化財」である「志免立坑櫓」は、日本の近代化を担ってきた石炭産業の貴重な遺産であり、その背景なり、建造物として充分世界遺産の対象となり得るとして、現在展開されている「日本の近代化産業遺産群」の前身、



創設時の「九州近代化産業遺産群」発足時に、私は、関係機関、諸団体に志免立坑櫓を加えて貰うよう活動してきたが、そのコンセプトが幕末から明治にかけての日本の近代化に貢献した産業遺産を対象とすることから、(志免立坑櫓は昭和期)そのメンバーに加わることはできなかったが、加藤康子氏(後で記述)等のご尽力で、サブリストの一角に名を連ねることができていました。

その後、山口県や佐賀県、そして岩手県、静岡県も参画し、H25年4月23日に「日本の近代化産業遺産群－九州・山口および関連地域」として推薦書案を国に提出しユネスコへの国の推薦を待っている状態であります。

昨年4月28日に「九州伝承遺産ネットワーク」(私も志免立坑櫓を活かす住民の会の一員として創設時から参画)の総会が長崎市で開催され、(写真上－古庄右側)総会内の講演で、九州国際大学の清水憲一教授は、演題「九州山口の近代化産業群の世界遺産登録推進に向けての現状と課題について」、都市経済評論家で九州山口の近代化産業遺産群世界遺産登録推進協議会コーディネーターの加藤康子氏は演題「今までの政府内の検討経緯、与党内での検討経緯」と題して(写真下)講演をされました。

講演時は民主党政権下で、民主党内での審議経緯が報告されたが、昨年末、自民党に政権交代となった。

講演の中で特に注記すべき点は、加藤康子氏の講演で、この「産業遺産群」が世界遺産になれば、その施設だけでなく、関連する地域や類似遺産・施設も注目され、特に観光面では、連携することによって相乗効果が出来、高い効果が期待できる。このためにも、より強い連携が求められ、九州伝承遺産ネットワークの存在も大変期待される。



世界遺産周遊プランの策定等、積極的に取り組むよう要望され、志免立坑櫓もその一員として期待された。

今後もこの近代化遺産群の世界遺産登録への動向はしっかり掌握し、前述のような事態も想定しながら、志免町の活性化と発展、そして教育のためにもしっかり調査研究を継続して行きたいと思います。 ー完ー